

実践② 鹿屋市立東原小学校

1 はじめに

本校は、茶の栽培・牛の飼育が盛んな地域にある児童数 108 人の学校である。子供たちは、日頃から読書に親しみ、学校図書館をよく利用している。

本校では、「全ての教育活動の基盤は読書活動」の考えのもと、学校・PTA・地域が共に手を携え、鹿屋市の未来を創造する人間性豊かな人材育成「親と子の 20 分間読書」運動を推進している。

本校の読書活動は、学校図書館を中核とし、校内の読書活動を充実させるとともに市立図書館、県立図書館と連携しながら、地域の方々にも本を貸し出す学校図書館の地域開放を 3 年前から行っている。保護者による読書推進は、PTA 専門部の全ての活動に読書活動への努力目標が盛り込まれ、本校の読書活動を支えていただいている。

本年度、県教育委員会から「子どもの読書活動推進優良校」として表彰していただいた。

2 読書への誘い

本校では、わたしたちの母国語(日本語)を大切にした国語教育(核に読書)と鹿屋を訪れる外国人の母国語を大切にした外国語教育を研究の中核とし、読書活動もその一翼を担っている。様々な活動をとおして、子供たちを読書へ誘っている。

(1) 読書の時間

朝の会終了後、15 分間の読書の時間を設定している。(週 2 回)朝の読書の時間には、PTA「親と子の 20 分間読書推進部」の保護者の方々を中心に、各学級に読み語りに来ていただいている。子供たちは、保護者の方の読み語りを楽しみにしている。



(2) 「親と子の 20 分間読書の日」

学級ごとに、1 週間のうち 1 日「親と子の 20 分間読書の日」を設定し、おやこ読書カードや読書貯金に取り組んでいる。

本校で取り組んでいる「親と子の 20 分間読書運動」は、親が子供に読み語りをするだけでなく、子供が家の人に絵本等を読み語りすること、音読を聞いてもらうことなども、親と子の 20 分間読書の日のお取組として推奨している。



(3) 図書委員会の活動

学校の読書活動の中心は、子供たちの委員会活動である。年間をとおして、季節に合わせたイベントを企画し、多くの子供たちが学校図書館を利用する工夫をしている。例えば、6月の梅雨の時期には、図書委員会による読み語りを昼休みに行った。また、7月は学校図書館内に竹を設置し、短冊に願い事を書いてもらう取組、9月から10月は「読書運動会」、11月は読



